

静岡県社会福祉協議会福祉教育副読本

みんなちがっても、  
おなじ「いのち」。



Supported by



# いのち

「いのち」ってなんでしょう？

ただ一つたしかなのは、「いのち」は「いのち」から生まれたということ。

Supported by



# いのち

お父さんがにこにこしながら赤ちゃんをだっこしたり、  
お母さんがうれしそうにおんぶしたりしている姿を見ると、  
どの「いのち」も大切なものだということがわかります。

Supported by



# いのち

世界にはいろいろな人がいます。

男の人、女の人、赤ちゃん、お年寄り、障がいのある人もいます。

一人ひとり、顔も性かくもトクイもニガテもちがうけれど、

みんな同じ、世界に一つだけの「いのち」です。

Supported by



あなたが笑えば、わたしも笑う。  
「いのち」が生まれた時の  
あなたが悲しいと、わたしも悲しい。  
お母さんやお父さんの気持ち  
おなかがすいたら、おっぱいをあげて。

おむつがぬれたら、おむつをかえて。

ねむたいときは、いっしょにねむる。



# 「いのち」が生まれた時の お母さんやお父さんの気持ち

あなたが生まれて、  
しんぱいなことがいっぱいふえた。  
あなたが生まれて、  
ちっちゃなことがとってもたいせつになった。  
うれしくて、  
いっぱいなみだがあふれるようになった。



# 「いのち」が生まれた時の お母さんやお父さんの気持ち

そこにいることが、  
そこにいてくれることが、  
ただ、ただ、  
ただ、ただ、  
いとoshii。



# かんじる

同じ教室のなかにも、

あなたが感じていることと、友だちが感じていることが

いっしょとはかぎりません。

あなたが見ている世界と、となりの人が見ている世界は、

まったくちがうのかもしれない。

Supported by



# かんじる

もしも、みんなが同じような感じ方しかできなかったら、

世界中に、こんなにいろいろな絵や

たくさんの歌はないはずですね。

Supported by



# 小さなあなから見る世界



# 小さなあなから見る世界

「まるめたボール紙をのぞいている」ように見えています。

目に見えるはんいが、とても小さいのです。

そのために、周りのことに気づかなかったり、  
話しかけられて、びっくりしてしまうことも、よくあります。



# 小さなあなから見る世界

そのかわり、一つのことをじっと見てかんさつするのがトクイです。

大すきなこん虫の絵をかかせたら、だれもかかないません。



# 小さなあなから見る世界

人によって見えている世界も、  
音の聞こえ方も、においの感じ方もちがいます。  
感じ方のちがいに気づいたら、



みんなもっとなかよくなれるかもしれません。

# つたえる

赤ちゃんは、なくことで気持ち伝えます。

言葉の話せない人は、字で書いたり、

手のうごきなどで気持ちを伝えます。

Supported by



# つたえる

さわるとわかる点字で、

目の見えない人に気持ちを伝えることもできます。

Supported by



# つたえる

じぶんの気もちを伝えたいと思うのは、

みんな同じです。

気もちが伝わると、うれしいのもおなじです。

Supported by



とおいとおい国から、その子はやってきました。

地球のちょうど反対側から、お父さんのしごとで転校してきました。

「日本語」はまだあまりわかりません。

でも、その子には友だちがたくさんいます。

いつも歌うように話すので、

声の感じで気持ち伝わってくるのです。



歌うように話す女の子

気持ち伝える方法は、  
「ことば」だけではありません。  
表じょうや身ぶり、声の感じで、  
伝えることだってできます。



歌うように話す女の子

とおい国からきた、その子が話すことばからは、  
どんないみかわからなくても、正じきな気もちが伝わってきます。  
さい近は、ときどき日本語もまざるようになりましたが、  
歌うように話すのは、いままでとかわりません。

みんな、その子と話すのが大好きです。



歌うように話す女の子

# あそぶ

なかのよい友だちと遊ぶのは楽しいことですね。

でも、いつもとちがう友だちと遊んだら、

「いままでとはちがう楽しいことが見つかった」

ということはありませんか？

Supported by



# あそぶ

性かくも年れいもちがう、トクイやニガテもちがう、

じぶんとちがう友だちほど、

あたらしい発見は多いかもしれません。

Supported by



# おじいちゃんの手



幼稚園に入るよりずっと前、  
その子は、おじいちゃんと毎日遊んでいました。

おじいちゃんの手

おじいちゃんとおなじくらい。

小さな手をひっぱって、

おじいちゃんは遊びに出かけました。



# おじいちゃんの手

だけど、小学校に入ってから、  
手をつないでいません。

シワシワのおじいちゃんの手が、  
なんだか気になるからです。



# おじいちゃんの手

おじいちゃんの手は、いろいろなことを、  
たくさんの遊びをしてきました。

竹とんぼをとばしたり、  
お魚をつったり、コマをまわしたり、  
庭のブランコをつくったり。

その子の頭を  
やさしくなでてくれたこともありました。



# おじいちゃんの手

そんなことを思い出したら、  
その子は、少し泣きたい気持ちになって、  
ひさしぶりにおじいちゃんと  
手をつなぎたくなりました。



# おじいちゃんの手

シワシワの手から  
教えてもらえる遊びは、  
まだまだいっぱいあるはずです。



# まなぶ

あなたは、勉強が好きですか。

勉強は、つくえの上だけではありません。

人がほかの動物とちがうのは、

おたがいに「学びあう」ことができ、

学んだことを、「生きるための力」にできる点です。

Supported by





その子には、先生が何人もいます。

学校の先生や、ピアノや体そうの先生

だけではありません。**たくさんの先生たち**





お母さんはおそうじのし方を、  
お父さんは紙ひこうきのつくり方を、  
おじいちゃんは竹うまのつくり方を、  
おばあちゃんはお祭りのいみを教えてくれました。

たくさん先生たち





となりのおじさんからは  
じょうずなヒモのしばり方を  
おばさんからは、  
昔のまちのようすを学びました。

たくさん先生たち





その子の近くには、まだまだ、  
たくさんの先生がかくれています。  
実はその子も、だれかの先生に  
なっているのかもしれない。

たくさんの先生たち



# はたらく

人は、なんのために働くのでしょうか。

お金のためでしょうか。

暮らしのためでしょうか。

Supported by



# はたらく

もし将来あなたが働くとしたら、

どんな仕事をしたいですか。

それは、なぜですか。

Supported by





お金より大切なもの



# お金より大切なもの



その人は、毎日パンをつくっています。  
どうしても手がブルブルふるえてしまうので、  
ほうちょうをつかうのはニガテですが、  
パン粉をこねるのはトクイです。

ある人が、その人に  
「たいへんな思いをしてパンをつくるより  
家でのんびり暮らす方がしあわせじゃないか」  
と言いました。

# お金より大切なもの



でもその人は、お客さんに  
「パンがおいしかったよ」と言ってもらう方が、  
ずっとずっとうれしいのです。

となりの部屋には、  
なんどもなんども大きさをたしかめながら、  
木のおもちゃをつくっている男の人がいます。

車いすのひとは、いつもニコニコわらいながら、  
クッキーの袋にリボンをかけています。

# お金より大切なもの



働くことで手に入るもの。  
それはきっと、  
お金だけではありません。

## 「感じたこと」を書いてみよう

先生の話をおきいて、どんなことを思いましたか？

感そうを書いてみましょう。

## 「できること」を考えてみよう

あなたが、いろいろな人と「ともに生きる」ために、

どんなことができるのかを、考えてみましょう。



Supported by

